

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12616

研究課題名(和文)熊本地震時の近隣県支援者の実態把握と受援システムの構築と検証に関する研究

研究課題名(英文) Research on the grasp of the actual situation of supporters in neighboring prefectures at the time of the Kumamoto earthquake and the construction and verification of a support system

研究代表者

松尾 寿栄 (MATSUO, HISAE)

九州大学・キャンパスライフ・健康支援センター・教授

研究者番号：70511476

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：毎年開催される内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練に参加する訓練されたチームとそれを受け入れる被災想定県の自治体職員、今までに受け入れることを想定していなかった医療機関等について訓練前後における変化についてアンケート調査を行った。ハザードマップ等で被災状況を想定する情報については認識していたものの、訓練を通じてより当事者意識が芽生えたり、今後の見通しなどに目処や自信がついた職員がみられた。熊本地震時に近隣支援者として広域搬送の患者受け入れなどに関わっていても、数年経過する中で記憶が薄れている話も聞かれ、今回、実際、支援を受け入れる訓練を通して再度重要性を認識する傾向があった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この領域でトレーニングを受けている支援チームに属する人は、自身の役割について認識できているが、熊本地震を近隣県としてサポートした経験がある医療機関でもそれを近隣支援者として認識していない様子が見られた。立場が変わって被災して広域搬送で行う側として役割を訓練に組み込むことにより、より双方の立場を理解し、実際の災害が起きた際に具体的に今後の行動指針を得られた様子が見られた、訓練は当事者意識の薄れぬうちに立場も変えて訓練することでより定着した意識に繋がることが予想される。一部の訓練を受けている人だけではなく、一般の医療機関でもシステムの認識や実際の運用方法について重要性を認識する傾向があった。

研究成果の概要(英文)：A questionnaire survey was conducted on the changes before and after the drill among the trained teams that participate in the annual large-scale earthquake medical response training organized by the Cabinet Office, local government officials who accept the teams, and medical institutions that had not previously been expected to accept the teams. Some of the participants were aware of the information on the hazard map and other information on the disaster situation, but some of them became more aware of their own responsibilities and more confident about their future prospects through the drill. Some of the participants who were involved in the wide-area transport of patients as supporters during the Kumamoto earthquake tended to reconsider the importance of the training through the actual acceptance of support this time.

研究分野：災害ストレス

キーワード：受援システム 支援者支援

1. 研究開始当初の背景

災害時の保健医療対策の3本柱の医療救護体制についてはDMATやDPATによるシステム構築が進んできているものの、感染症や栄養に関わる対人保健の予防活動、生活環境衛生に関わる対物保健については、各都道府県から派遣された保健師チームや日赤チームなど多様な団体が活動し、この熊本地震においても、ライフラインや通信が早期に復旧した中でも、ニーズとリソースのミスマッチや支援と受援のミスマッチなどの混乱がみられ、災害時における一元的な情報収集と組織横断的な指示やラインの確立が喫緊の課題であった。また、自らが被災者でありながらも住民の支援を行う立場の行政職員や医療機関の職員等の支援者支援の必要性は認識され始めているが、支援者のスクリーニングについては小規模の自治体によっては方法によっては誰が何と答えたか特定できるなど、今後の生活に影響を与えかねない状況や、非常時に備えて常に職員を余剰に抱えきれない地方財政の問題も兼ね備えている。支援に出向く人のための制度は確立されつつあるが、災害時における非常モードの職員の運用や休暇の取り方など、被災県となった際の具体的な共通の認識や対策がとられている自治体は数少ない。加えて南海トラフ巨大地震は、太平洋沿岸を巻き込む大惨事が想定されており、ライフラインや通信の危機など混乱を極めることが予想され、その中で受援体制を確立することは混乱を最小限にとどめ、自らが被災者となりながら支援に関わる行政職員等の2次的な健康被害を予防するためには必要なシステムとなる。

2. 研究の目的

大規模災害時には、被災者のみならず、その支援に関わる支援者も多大なストレスが懸念される。支援者自身が種々のストレスへのセルフケアを行い、支援活動に意義を見出せることは重要であるが、自らのセルフケアだけではなく、周囲からの支援者支援対策も重要な課題と考えられる。本研究では、実際に近隣県から支援に携わった支援者の実態把握とその調査をもとに、よりよい支援者支援のあり方や今後予測される南海トラフ巨大地震に備え、被災県となる際の当事者としてのより効果的な受援者となるためのシステム構築を検討することを目的とした。

3. 研究の方法

熊本地震を近隣県として支援する立場であった宮崎県で支援者として関わった人については自治体と協力してスタッフや広域搬送の受け入れ医療機関については把握できている。今回、内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練が開催されるにあたり、当時、支援にあたった行政・医療機関に再度、訓練を通じて災害を認識する機会となるため、訓練前後で災害や災害に対する備え、所属する領域での支援活動についての認識についてどのように変化したかアンケート調査を行った。

4. 研究成果

日本国内でDNATやDPAT研修ですでにトレーニングを受けており内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練に参加するチームと特別な訓練を受けずにそれを受け入れる被災想定県の自治体職員、今までに受け入れる訓練をしていなかった医療機関等について訓練前後における変化につ

いてアンケート調査を行った。ハザードマップ等で被災状況を想定する情報については認識していたものの、訓練を通じてより当事者意識が芽生えたり、今後の見通しなどに目処や自信がついた職員がみられた。熊本地震時に近隣支援者として広域搬送の患者受け入れなどに関わっていても、支援者であった認識がなかったものや数年経過する中で記憶が薄れている話も聞かれた。今回、実際、支援を受け入れる訓練を通し、大規模災害については一部の訓練を受けている人だけではなく、一般の医療機関でもシステムの認識や実際の運用方法について重要性を認識する傾向があった。フォローアップとして半年、1年後の意識がどのように変化したか追う予定にしていたが、コロナウイルス感染症によりシステムや意識の定着に関するデータは収集できなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 尾崎晴奈、松尾寿栄、原田奈穂子、石田康 他
2. 発表標題 大規模地震時医療活動訓練を通して～活動内容と今後の課題～
3. 学会等名 第64回九州精神医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾寿栄、原田奈穂子、三好良英、香田将英、石田康
2. 発表標題 災害拠点精神科病院の機能と今後の課題
3. 学会等名 第71回九州精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾寿栄、三好良英、武田龍一郎、長嶺育弘、高野吉輝、石田康
2. 発表標題 災害時の医療活動訓練について～県北部での新たなとりくみ～
3. 学会等名 第82回精神科医会懇話会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾寿栄
2. 発表標題 災害時における受援体制の準備とは
3. 学会等名 第31回九州・沖縄社会精神医学セミナー（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 尾崎晴奈、松尾寿栄、原田奈穂子、石田康 他
2. 発表標題 大規模地震時医療活動訓練を通して～活動内容と今後の課題～
3. 学会等名 第64回九州精神医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾寿栄、原田奈穂子、三好良英、香田将英、石田康
2. 発表標題 災害拠点精神科病院の機能と今後の課題
3. 学会等名 第71回九州精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松尾寿栄、武田龍一郎、三好良英、原田奈穂子、石田康
2. 発表標題 大規模災害時における精神科医療機能維持のための準備の仕方
3. 学会等名 宮崎県精神科医会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石田 康 (ISHIDA YASUSHI) (20212897)	宮崎大学・医学部・教授 (17601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	三好 良英 (MIYOSHI RYOEI) (80612382)	宮崎大学・医学部・講師 (17601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関